



宿題と共生する英語授業：語彙の「積極的活用」を目指して

——『ジーニアス英和辞典 第4版』を使って

高橋昌由



■語彙の積極的活用

語彙が注目されています。今後は、教えるべき語彙が増えることでしょう。また、読む、聞く、書く、話すことを基本にしたコミュニケーション能力が引き続き求められますし、そのようなコミュニケーション能力や思考力の向上のための語彙力充実に向けての指導も求められます。加えて、語彙力増強のために、語彙の実際の使用を含むその積極的活用が求められます。では、どのような授業展開で、語彙を「積極的活用」するチャンスを生徒に与えることができるのでしょうか。

■宿題の活用

生徒が語彙を「積極的活用」する場としては、授業だけでなく「教室外」、特に宿題があります。本稿では宿題にも焦点をあて、語彙の「積極的活用」を目指すリーディングの授業を考えます。

語彙の「積極的活用」のために、私が提案している「宿題の10の原則」の中の特に次の3項目を重視します：④授業で充分教える、⑩宿題をやる気にさせるための学校と家庭を連携させる活動、⑨目標に向っての適したタスク。(授業と宿題の連携は、1 Pre-class phase ⇒ 2 First home phase ⇒ 3 Class phase ⇒ 4 Second home phase ⇒ 5 Post-class phase の順に展開されます。1, 3, 5が授業で、2, 4が宿題です。)

このリーディング授業+宿題の連携では、「初めて見たテキストが読めた!」と、実感できることを大切にします。以下では、「初見で読めた!」を実感させ、語彙を生徒に「積極的活用」させる

ために、どのように1 ⇒ 2 ⇒ 3 ⇒ 4 ⇒ 5の流れを展開するかを説明します。

1 Pre-class phase：予習にむけて

この段階は、実際にテキストを読む前の授業で、その重要な語義と発音・アクセントを重視します。語義については、品詞にも注目させ、「simply は『簡単』ではなく『簡単に!』」というように確認させます。品詞をふまえていないと「主語+動詞」さえ見抜けず、読めない!また、書けない、話せない!となります。また、発音・アクセントについては、正確に速く音読できることも重視します(これは、正確に速くテキストを読むことにつながります)。これらをもとにした「2 択 VOCA (vocabulary)」というハンドアウトに取り組みさせます。

この「2 択 VOCA」は20行ほどできていて、1行が3つの部分に分かれていて、左からターゲットの語、中央と右が正答か誤答となる訳語が並びます(例:「simply 簡単 簡単に」)。「2 択 VOCA」の取り組み方は、まず、生徒に短時間で正解の訳語を○で囲ませます。短時間で取り組むことで緊張が生じます。次に解答解説で語を簡潔に説明していきますが、生徒にはその説明をハンドアウトに書き込ませ、書き込みの多いものは評価してやります。最後は、正確に速く音読できるように練習させます。単調な練習では飽きるるので、自信が持った頃にペアワークで競わせるのもいいと思います。ゲーム感覚が大切です。



2 First home phase : 1 の復習と 3 の予習

ここで、辞書使用を要求するのではなく、「2 択 VOCA」の単語が正確に速く音読できる、単語を見て訳語が言える、(できれば、訳語を見て単語が言える、) という復習を重視します。これは次のテキストを読む 3 での授業に備えた予習にもなっています。ここが不十分では、次の 3 のテキストを読む授業の段階では、未知語がたくさんあるために、テキストが理解できないようになってしまいます。

3 Class phase : 基礎理解確認

「2 択 VOCA」を使いペアワークで音読させて、正確さと速さを競わせるようにします。ゲームとはいえ、自分の力を目の当たりにするわけですから、筆答の単語テストより効果があります。また、ペアが音読した英語の訳語を言ったり、その逆のタスクなどをさせます。進化した自分を確認して、「家で練習してきて良かった!」と、充実感がいっぱいになります。この段階で、初めてテキストを読ませるとかなり理解できるので、「自分ではできるんだ!」と、うれしくなります。

この時に英和辞典を引かせて、ややこしい語法などをノートに整理しつつ確認させると生徒の頭にスッと入り、定着も良いようです。

4 Second home phase : 純粋な復習

ここまでの段階では「2 択 VOCA」の語に馴染んだくらいで、語彙の広さも深さも不十分です。ここで助けになるのが、英和辞典で、この段階での英和辞典活用は効果的に機能します。

大切なのは、3 の授業で明確にタスクとそのとり組み方を示しておいて、そのタスクが宿題として楽しめるようにしておくことです。タスクは、取り組んだ「2 択 VOCA」の語から作りますが、その例として、『ジーニアス英和辞典 第4版』(以下 G4) の多義語の語義展開図をもとにしたタスクは有効でしょう (例: 「sound の副詞の例

文を使ってあなたの最近の生活を友達に伝える文を書きなさい。』。G4 の語法解説に記載されている内容についてのタスクもよいでしょう (例: 「maybe の語法欄の解説を参考にして、“Maybe.” と返答する理由を伝える文を書きなさい。』)。また、あれこれ考えて書き留めた視覚的にわかりやすいものが記憶に残るようなので、semantic mapping もおすすめします。さらに、ターゲットにした語を含む「1 行日記」は特におすすめです。経験したことは書いて楽しいし、充実感があります。「1 行でいいよ!」とは言うだけで、なかなか 1 行では完結しないので 2~3 行は必要になります。でも、親しみのある語で実体験の内容ですから、書けるし、書こうとします。書いたら充実感も生まれます。また、話したくもなります。これがパラグラフ・ライティングにもつながります。この段階では、すばらしいノートが仕上がっています。

5 Post-class phase : 復習と発展

ノートを開かせて自己学習の成果を教師が点検します。Good Job! などのハンコが効果を発揮します。自分が書いた 1 行日記をペアに読んでもらうタスクも有効です。事前に暗記して語りかけるペアワークはなお良いでしょう。4 人での group presentation はさらに良いと思います。

■これからの英語教育の進み道

本稿では、語彙の積極的活用を目指しての宿題を含む授業展開を提案しましたが、お気づきのよう、辞書引きを後に配置しています。これは、生徒のやる気を高めてそのやる気を持続させつつ、辞書を効果的に機能させる方策です。

英語教育の行方が見えにくい昨今ですが、さまざまな場で学力を高めることによって、生徒に対しての責任を全うする気概を大切にしたいと思う今日このごろです。

(たかはし まさゆき・大阪府立山田高等学校教諭)